氏　　名：穴　井　えりも
学 位 の 種 類：博士（看護学）
報　告　番　号：甲第１０２号
学 位 記 番 号：博第１００号
学位授与年月日：令和４年３月１７日
学位授与の要件：学位規則第４条第１項該当
論　文　題　目：糖尿病とともに生きる人への待つ看護モデルの開発
Development of the Waiting-Nursing Model for People Living with Diabetes
論 文 審 査 員：主査　江　本　リ　ナ
副査　本　庄　恵　子（正研究指導教員）
副査　川　原　由佳里（副研究指導教員）
副査　筒　井　真優美
副査　田　中　孝　美

論文審査の結果の要旨

糖尿病とともに生きる人は増加しており、質の高い支援が必要とされている。糖尿病の療養で必要とされる生活習慣などの行動変容は当事者にとって困難を伴うことが多く、行動変容が目に見えない状況に看護師たちは無力感を感じることもある。自覚症状が乏しく長期間にわたる療養が必要である糖尿病とともに生きる人への支援においては、これまで糖尿病看護において強調されてきた行動変容のための学習理論モデルのみでは解決できないことも多い。看護実践の場では、熟練看護師は人々の主体性に信頼を置きながら、行動変容をせかさずに傍で待つというかかわりをしている。このような待つということに焦点をあてて、糖尿病とともに生きる人への新たな看護モデルを開発することを目的とした本研究は、看護に新たな知見をもたらすものであり、新たな理論構築の基盤となり得るものと評価された。

本研究におけるモデル構築の方法は、Schwartz-Barcott & Kim（1986; 2000）の Hybrid 法と Walker & Avant（2018）の理論統合を参考とし、理論の相、フィールドワークの相、統合の相の 3 つの相で構成されている。本研究では、この 3 つの相それぞれにしっかりと取り組み、丁寧な分析と統合がなされていることは評価できる。フィールドワークの層では、9 人の看護師と 15 人の糖尿病とともに生きる人のかかわりの参与観察やインタビュー調査を行うことで具体的な実践を浮き彫りにし、理論の相との比較分析により、統合の相で「糖尿病とともに生きる人への待つ看護モデル」を開発することができた。

糖尿病とともに生きる人への待つ看護モデルの構造は、患者と看護師の相互作用を示しており、第 1 位相から第 4 位相を含む。第 1 位相は、《目の前の人への関心と接近》という待つ看護の前提となる状況を示す。第 2 位相は、待つ看護の具体的実践が融合し、糖尿病とともに生きる人のペースとタイミングに応じてダイナミックな待つ行為となることを示し、具体的実践として《時機を逃さない行為》《待てるかどうかの吟味》《待つ距離感》を含む。第 3 位相は、《お互いに成長途上にある人と認め合う》ことがなされ、第 4 位相では《お互いが同じ方向を向き歩む》ことが明らかとなった。待つ看護モデルには、お互いの関心が触れあう《調和》、糖尿病とともに生きる人のペースとタイミングに応じてダイナミックな看護として融け込む《調和》、互いの成長を認め合うなかでの関係性における《調和》、同じ方向を向き歩むという方向性における《調和》があり、この《調和》が待つ看護の各位相を貫く軸となることが示された。

以上から、本研究は、糖尿病とともに生きる人への看護支援に活用できる、新たなモデルを構築したものとして高く評価できる。とりわけ、待つ看護は静的なものではなく、糖尿病とともに生きる人と看護師の相互作用によるダイナミックな行為であることを示したことは、ユニークな知見といえる。糖尿病とともに生きる人のみならず、病いとともに生きる人への支援モデルとしての今後の発展も期待できる。

審査の結果、本論文は本学の審査基準を満たしていると判断し、博士（看護学）の学位論文として「合格」と判定した。